

# 長谷川さんに

# 50問 50答



インタビュアーでは時間切れで聞けなかった、あんなこと、こんなこと。アホなこともまじえて聞いてみました。

Q 住んでみたい国

A ポルトガル

Q 子どもSのいさばん 恥ずかしいと思いませんか

A お母ちゃんの手作り 特製体操服が恥ずかしかった

Q 観るのが好きなスポーツは？

A 野球が好きでしたが、鼻肩の近鉄バファローズがなくなつてからは観なくなりまして。悲しい

Q 嫌いな食べもの

A お菓子

Q 食う、寝る、遊ぶ、順位を上げると？

A 寝る、食う、遊ぶ

Q 動物に生まれ変わるとしたら？

A 絶対ネコになりたい

Q 絵本づくりで大阪弁を封印されたら？

AQ じえんじえん大丈夫でつせ。標準語でコマコマに書きまっせ。大阪弁以外で書いた絵本もぎよっさんありまっせ

Q おにぎりの具といたら何？

A シヤケ

Q 定番のおつまみ

A そごらに

Q メガネはいつから？

A 中学生のころかなあ、『パピヨン』という映画観てトガ役のダスティン・ホフマンがまん丸いメガネかけてて、あんなメガネかけたいなあと思つてたが、勉強しないので目が悪くならず。25歳くらいでやっと軽い近眼になつたので喜んで丸いメガネかけた。今は近眼の老眼

Q 好きなものは先に食べる？ 最後に食べる？

A 最後



Q 得意料理

A 愛犬チヤイ

Q 絵本作家でなかったら何になりたい？

A 歌手

Q 自分の長所は？

A こんにやくのようこふにやふにや

Q 囲碁と将棋、プロになるならどっち？

A 将棋

Q 好きな食べもの

A 桃

Q 『PEOPLE』

A 自分でわかるかい

Q 落語の好きな囃

A 「けんげしや茶屋」

Q 無人島に持っていかせると？

A 酒、釣竿、包丁

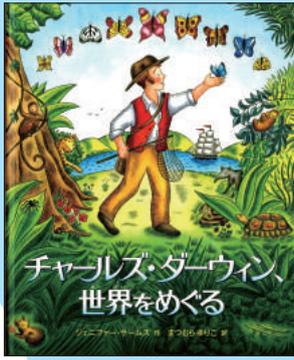
A 自転車で走る

A 桃

A 自分でわかるかい

A 「けんげしや茶屋」

A 酒、釣竿、包丁



『チャールズ・ダーウィン、世界をめぐる』  
 作/ジェニファー・サームズ 訳/まつむらゆりこ  
 1,800円(廣済堂あかつき)

ダーウィンは大学を卒業したあと、海軍の調査船に乗り込み地球を一周しました。その過程で遭遇した地形や天候、生息している生きものなど、すべてを克明に記録し、それがやがて動物の進化論につながるのです。



『つちづくり にわづくり』  
 文/ケイト・メスナー  
 絵/クリストファー・サイラス・ニール  
 訳/小梨 直  
 1,600円(福音館書店)

冬を越した土の中では、たくさんの虫たちが「小さな庭師」として働いています。そこへ人間が種をまいて育て、いわば虫たちとの「共同菜園」。いい土壌にはいい植物が育つのです。



『どうなってるの? うみのなか』  
 文/ケイト・テイヴィス 絵/コリン・キング  
 訳/福本友美子  
 1,800円(ひさかたチャイルド)

ページのそこそこにある小さな仕掛けの窓をめくって、海の中を見てみましょう。珍しい魚の名前や大きさ、不思議な習性や好んで食べるエサなど、知らなかったことが知識に変わります。



『昆虫って、どんなの?』  
 作/いもりよしひこ  
 1,380円(ハッピーオウル社)

昆虫は地球でいちばん繁栄している生きもの。その基本的な体の構造や、「骨」がない、あごは左右に動くといった、あまり知られていない特徴など、昆虫のことならなんでもわかります。



『35億年のスーパー絵巻  
 生物が始まってからの全歴史をひと目で見る』  
 絵・文/ケイティ・スコット 訳/川村まゆみ  
 1,500円(エクスナレッジ)

先カンブリア時代に全生物の共通祖先である単細胞が誕生してから、最初の人類であるホモ・ハビリスが誕生するまでの生きものの進化が時系列に絵巻となって1枚に! 裏には進化の解説つき。



『いきもの写真館 べんりなしっぽ!  
 ふしぎなしっぽ!』  
 文・写真/小宮輝之  
 1,200円(メディアパル)

動物のしっぽは何のためにあるのでしょうか? 木にぶらさがったり、体のバランスをとったり、ハエを追いかつたり。そして、お尻の穴のフタとしての役目もあるそうです。



『いきものちえくらべ』  
 写真/海野和男・中村庸夫 ほか 文/嶋田泰子  
 1,900円(童心社)

敵から身を守り、生きのびるために、生きものはさまざまな工夫をしています。敵とそっくりの姿になって大勢の中にまぎれたり、毒を持っている生きものに似せて敵をあざむいたり。知恵比べの様子が写真でよくわかります。



『食べ物で見つけた進化のふしぎ  
 ゲッチョ先生の食べ物コレクション』  
 文・絵/盛口 満  
 1,800円(少年写真新聞社)

食卓にのぼる身近な食べものの歴史をさぐります。アサリ、カニ、木の実、きのこなど。その歴史と進化を見てみましょう。イカもタコも貝の仲間だというビックリ進化や、いなごの味などの話も。

この人にあれもこれも

# 絵本作家さん 「こんにちわは！」



「もりの  
おとぶくろ」  
などでおなじみ!

## 出久根 育さん

### PROFILE

でくね・いく

1969年東京都生まれ。武蔵野美術大学油絵科版画専攻卒業。2003年グリム童話『あめふらし』でブラティスラヴァ国際絵本原画展グランプリ受賞。以後絵本や読み物の挿絵を手がけ、定期的に個展も開催。02年よりブラハに在住。

大きな賞をいただいたことで  
仕事も生活も急に変わった

今振り返ると、ブラハに住むことを決めたときは、何も考えていませんでした。

最初はたまたま、仕事でチェコに行く知人に誘われて、一緒に行きました。当時『おふる』はもう出版していましたが、仕事は雑誌のカットなどがメインでした。

『あめふらし』を日本で仕上げた直後に、旅行の経験を機に、縁があったブラハに移住を決めました。

ところが、ブラハに移り住んでももなく、思いがけなく『あめふらし』でブラティスラヴァの賞をいただいた、ブラハでの生活が大きく変化しました。

外国の人は日本での私のキャリアを知らないのですが、ベテランの絵本作家だと思われて、いろいろな依頼が来たのですが、絵本の経験も浅く、技量もなかったため、まったく対応できませんでした。

外国暮らしも始まったばかりで、しばらくは大変でした。すべてが一度に動いてしまっただけで、ブラハにいることを味わうような状況ではありませんでした。

瞬発力だけでどうにか対応しながら、何年かを過ごしました。

## 絵本を描く人になりたいと思っていました

精細で美しく、それでいてどこか妖しさを漂わせる絵柄。  
チェコと日本両国にまたがって創作活動を続ける出久根さんは  
とてもシャイで、笑顔がかわいいすてきな女性でした

撮影／石川正勝

もう  
読んだ？

新刊

100!!

2017年12月～18年2月に発売された新刊絵本から、読みきかせにもおすすめの100冊を選びました。子どもたちとすてきな時間を過ごしてください。

※出版社五十音順

👶マークは乳幼児から、🎒は中・高校生も楽しめる本です。

定期購読者限定プレゼント🎁

新刊絵本プレゼントの詳細は、このページの下欄をご覧ください。

『ともだちのやくそく』

作/中川ひろたか  
絵/ひろかわさえこ  
1,400円(アリス館)

ワニのカイはウサギのウーが大好きです。別々の学校に通うことになったので、前のように会えなくなってしまいました。一緒に遊びたくて手紙を出したら、「会えます」と返事が来ました。うれしいカイです。



『灰屋灰次郎 灰はごさいー』

作/飯野和好  
1,400円(アリス館)

お江戸の裏表通りに、物を売り買ひする声気が気持ちよく響き渡ります。人気のある振り売り家業の中で、「灰はごさいー」と灰を買う、ちょっと変わった大きな顔の灰屋灰次郎という人がいました。



『星につたえて』

文/安東みきえ  
絵/吉田尚令  
1,500円(アリス館)

大昔、夜の海に浮かぶ1匹のクラゲが、ほうき星に出会いました。おしゃべりをし、夢のような時間を過ごします。再び星が巡ってくるのを待つうちにクラゲは年老いて、星に伝えかけた言葉を子どもに託しました。



『じてんしゃのれるかな』

作/平田利之  
1,200円(あかね書房)

空が青い日は、サイクリングにぴったりです。ほくはまだ自転車にうまく乗れないけれど、「へいきへいき」と声がかして、自転車はヨロヨロと前に進みだします。ちょっと怖いけれど練習が始まりました。



『ことはちゃん』

『ちなつくん』  
作/長田真作  
各1,400円(イースト・プレス)

涼やかな季節に生まれたことはちゃんは、空が大好き。しめつばい季節に生まれたちなつくんは、外が大好き。壮大な自然を味方に、悠々と遊びましょう。



『手ぶくろを買いに』

作/新美南吉  
絵/どいかや  
1,400円(あすなろ書房)

生まれてはじめての雪に驚く子ギツネに、母さんギツネは手袋を買ってあげたいと思いますが、人間が怖くて町まで行けません。母さんギツネは、ほうやの片方の手を人の子の手に変えて、町へ送りだしました。



『おはなみくまちゃん』

文/シャーリー・バレンタイン  
絵/デイヴィッド・ウォーカー  
訳/福本友美子  
1,200円(岩崎書店)

桜が満開になり、くまちゃんたちは、お花見に出かけました。パンが飛んでしまうほどの強い風に、くまちゃんたちは大喜び。風と一緒にふわーりと飛んで、桜を上から眺めました。



『かくれんぼ』

作/種村有希子  
1,300円(アリス館)

ミミちゃんは、すみれちゃんと一緒にクローゼットに隠れました。すみれちゃんだけ見つかったしまったあと、ぬいぐるみのクマとかくれんぼ中のオモチャたちが現れて、上手な隠れ方を教えてくれました。



※JPIC直販の定期購読の方に、抽選で新刊絵本100冊から1冊をプレゼントします。同封のアンケート用紙に希望する絵本のタイトルと必要事項を書いて、郵送またはファックスで応募してください。定期購読のお申し込みは巻末のハガキをご利用ください。

おはなし会 夏のプログラム



プログラム

小学校低学年

6月 テーマ: 想像の世界で遊ぼう!

① 『みずたまレンズ』

作/今森光彦 900円(福音館書店)

葉っぱや花、虫たちについている水滴に映しだされた世界をのぞいてみましょう。みずみずしい気持ちで次の絵本へ。



② 『あめがふるふる』

作/田島征三 1,400円(フレーベル館)

お留守番をしている兄妹は何を見たのでしょうか。躍動感のある力強いタッチの絵が空想の世界を広げてくれます。



③ 『ピッツァぼうや』

作/ウィリアム・スタイク 訳/木坂 涼 1,500円(らんか社)

雨が降ってもアイデアしだいでこんなに楽しく過ごせます。3冊目はユーモアたっぷりのおはなしで子どもたちを笑顔に。



対象別おはなし会のプログラムです。小学生向けは10~15分を目安に組みました。ここで紹介する絵本や紙芝居は、ご家庭での読みきかせにもおすすめです。夏のブックガイドとしても活用してください。

行事絵本・季節の絵本

父の日

『おとうさんは、いま』

文/湯本香樹実 絵/ささめやゆき 900円(福音館書店)

まゆちゃんは、絵本を読んでもくと約束したお父さんが帰ってくるのを待っています。今、何をしているのかな? まゆちゃんの想像は、どんどんふくらんでいきます。



夏

『セミくん いよいよ こんやです』

作/工藤ノリコ 1,000円(教育画劇)

セミくんの家の電話が鳴り、「いよいよ今夜」と言っています。虫たちも急いで準備を始めました。いったい何が起きるのでしょうか。



紙芝居

『おたまたまごろう』

作/金山美沙子 画/若山 憲 1,600円(童心社)

池の底にある、目玉のゼリーのようなものは、トノサマガエルの卵です。やがて、卵からオタマジャクシが出てきて、大きくなっていきます。



紙芝居

『じごくけんぷつ』

脚本/水谷章三 画/藤田勝治 2,200円(童心社)

旅をしているうちに、地獄に入り込んだ3人組。鬼たちに食べられそうになるたび、それぞれの仕事の技を生かして乗り越えていきます。



紙芝居

『ななちゃんのたなばた』

脚本/やすいすえこ 絵/うすいあきこ 1,500円(童心社)

七夕の笹飾りには、願いごとを書いた短冊を結びます。恥ずかしがり屋のななちゃんは、短冊に何と書いたのでしょうか。



(野阪麻代)

(安富ゆかり)

7月 テーマ: やったー、海へ行こう

① 詩『いるか』

『ことばあそびうた』より

詩/谷川俊太郎 絵/瀬川康男 1,000円(福音館書店)

導入に言葉遊び。読み手に続いて子どもたちにも声に出してもらいます。



② 『夏がきた』

作/羽尻利門 1,300円(あすなろ書房)

少年の一日を通し、懐かしい日本の風景がいきいきと描かれています。夏休みへの期待もふくらみます。



③ 『海のなかのぞいた』

作/よしのゆうすけ 1,200円(福音館書店)

水中メガネではじめて見る海の生きものが、お父さんとの会話で興味深く紹介されています。夏休み、海探検をするきっかけに。



8月 テーマ: 南国のくだもののヒミツ

① 『バナナのはなし』

文/伊沢尚子 絵/及川賢治 900円(福音館書店)

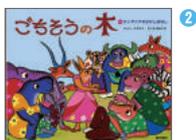
冷蔵庫に入れてみたらどうなる? どんな花が咲くの? バナナの不思議がよくわかります。

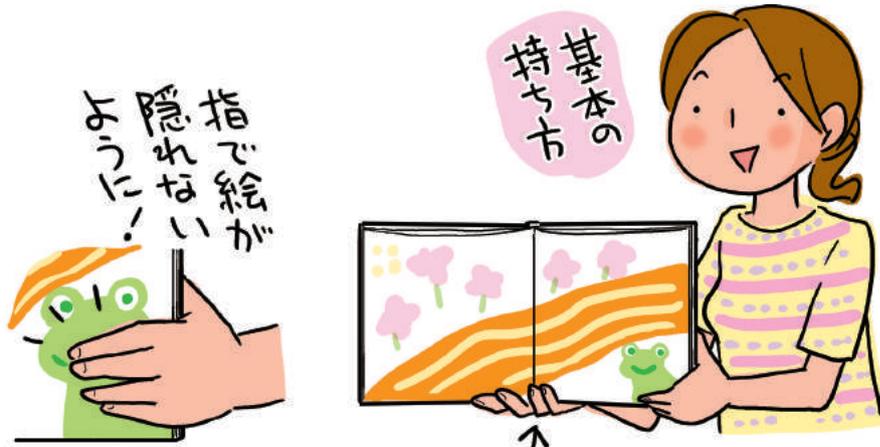


② 『ごちそうの木』

作/ジョン・キラカ 訳/さくまゆみこ 1,500円(西村書店)

「バナナの次は、たくさんの熟した実をつける不思議な大木のおはなしです」とつなげます。あとがきにあるように作者がタンザニアの昔ばなしを集め歩いたことも伝えたいですね。





絵本の持ち方

本の中心を4本（人さし・中・薬・小）指で持ち、親指で後ろがわ（表紙）を支えます。  
もう片方の手は、本の端に添えます。指で絵が隠れないように、また、本が下を向かないよう気をつけましょう。



ページのめくり方

できるだけ本の下の端を持ってめくります。  
右開きの本は左手で、左開きの本は右手で持つと、ページを送るよつにめくられてスムーズに読み進められますが、安定して持てるほうで持ち、腕で絵を隠さないように注意しましょう。  
絵をしっかりと見せてから、ストーリーに合ったタイミングでめくりまわす。

絵本の見せ方

子どもたちみんなが絵を見られるように、まっすぐ見せてあげましょう。  
その場の状況に合わせて、本を持つ位置や高さを変えることも必要です。  
また、本は表紙、見返し、本文、裏表紙と、本まるごとを見せるようにし、絵が小さいときなどは、さりげなく指で誘導するといいでしょつ。

